

電波利用環境委員会報告（案）

～ CISPRの審議状況及びストレージ会議対処方針について ～

平成27年 8月24日 電波利用環境委員会

1 CISPRの審議状況

CISPR（国際無線障害特別委員会）の小委員会においては、平素からアドホック会合やメール審議等を通じて、非常に幅広い分野にわたり、妨害波に係る許容値及び測定法について審議が行われているところであるが、昨年のCISPRフランクフルト会議後から今年のCISPRストレージ会議前までの約1年の間に行われた主な審議の状況については、別紙1のとおりである。

なお、我が国は、CISPRのB小委員会及びI小委員会の幹事国を務めており、これら2つの小委員会に幹事及び幹事補を送り出しているほか、各小委員会の作業班に専門家を送り、また、当該専門家が作業班に設けられた各種プロジェクトのリーダーを務めるなど（別紙2参照）、CISPRにおける妨害波の許容値及び測定法の標準化活動の全般に渡り、積極的に貢献している。

2 CISPRストレージ総会対処方針

（省略）

C I S P Rにおける最近の審議状況

2 A小委員会（妨害波測定装置や妨害波測定法の基本規格を策定）

(1) 測定用受信機に関する規格（CISPR 16-1-1）の改定

FDISが回付されており、測定装置の校正に関する要求事項、用語の定義等について審議中である。

(2) 30 MHz以下の周波数帯における放射妨害波測定

30 MHz以下の周波数帯における放射妨害波測定について、測定場の評価方法及び測定法を審議中である。具体的には、アンテナ校正法の規定や測定場所に適した測定法の分類等について検討されている。

フランクフルト会議では、我が国のラウンドロビンテスト（RRT）結果により、測定場として10m法電波暗室が適用可能であること及び3m法電波暗室においても概ね準拠することが確認され、CD文書に向けた策定作業が大きく前進した。

(3) 測定不確かさ計算などの現行規格への追加

ラージループアンテナ（LLA）や吸収クランプ等の測定装置に関する不確かさプロジェクトを追加するプロジェクトが開始された。

LLAの変換係数と参照値の数値テーブル作成、疑似電源回路網（AMN）のインピーダンス校正におけるジグに関する検討等が進められている。

参考：CISPRの審議段階における文書略称

- NP : 新業務項目提案 (New Work Item Proposal)
- WD : 作業原案 (Working Draft)
- DC : コメント用審議文書 (Document for Comments)
- CD : 委員会原案 (Committee Draft)
- CDV : 投票用委員会原案 (Committee Draft for Vote)
- FDIS : 最終国際規格案 (Final Draft International Standard)
- IS : 国際規格 (International Standard)
- ISH : 解釈票 (Interpretation Sheet)
- DTR : 技術報告書案 (Draft Technical Report)
- TR : 技術報告書 (Technical Report)
- PAS : 公開仕様書 (Publicly Available Specification)

CISPR ストレーザ会議対処方針

2015年のCISPR会議は、9月21日から10月1日までの11日間にわたり、イタリアのストレーザで開催される。日本からは、総務省、国立研究開発法人情報通信研究機構、各大学、各試験機関、各工業会等から〇名が参加予定である。

総会及び各小委員会等の会議において審議等が行われるが、それらの会議における我が国の対応を以下に記す。

1 基本的な対処方針

本会議の審議に際しては、無線通信に対する各製品の妨害波の影響を総合的に勘案し、また我が国の利益と国際協調を考慮して、大局的に対処することとする。

主な事項については、基本的に次項2及び3に示す対処方針に従うこととするが、審議の状況に応じて、代表団長（多氣昌生（首都大学東京大学院））の指示に従い適宜対処する。

2 総会の個別対処方針

（省略）

3 各小委員会の個別対処方針

最近の審議状況、審議結果を受けた各分野のCISPR規格の改定について、検討が予定される。主な対処方針は以下のとおり。

(1) A小委員会

ア 30 MHz以下の周波数帯における放射妨害波測定

フランクフルト会議後に、テストサイト評価のための修正案及び放射妨害波の測定法に関するDC文書が回付されている。

会議では我が国が実施したRRT結果をもとに、意見がCD案に反映されるよう対処する。

イ 新たな試験法や測定装置の提案及び既存規格（CISPR 16-2-1、16-2-3）への反映

今後の製品規格の改定に向けて、新たな試験法や測定装置の提案を我が国から

行っている。これまで、非対称トランスを用いた擬似通信回路網（AAN）、30 MHz以下における3軸磁界ベクトル測定法及び設置場所試験法などの必要性を説明し、具体的アクションに向けた検討を開始した。

我が国からは、試験の精度や効率を改善することを目的として、上記項目に加え、6面電波暗室（FAR）サイト評価改善法、LLA測定法を提案する。既に提案しているテーマについては、今後、JTFなどを立ち上げ、議論が加速するよう積極的に働きかけることにより、既存規格の改定を目指す。